


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I, III 】
2 実施対象者	色麻町立色麻中学校 1学年3学級 74名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	パラリンピックや障がい者スポーツに関する講話や体験をとおして、パラスポーツへの理解を深め、意義を実感することで、福祉の観点から自分たちができることについて主体的に考え、実践していく力を育成する。
5 取組内容	<p>(1) パラリンピックに関する事前学習</p> <p>期日 平成30年8月31日（金）</p> <p>内容 国際パラリンピック委員会公認教材「I'm POSSIBLE」を使用して、パラリンピックの歴史や意義、競技に関する知識等の学習を行った。</p> <p>(2) キャップハンディ体験</p> <p>期日 平成30年9月7日（金）</p> <p>内容 色麻町社会福祉協議会から車いすを借りて、校舎内で車いすの操作や介助の方法について体験学習を行った。</p>  <p>(3) 「あすチャレ！スクール2018」</p> <p>期日 平成30年9月14日（金）</p> <p>講師 車いす陸上 永尾 嘉章 氏</p> <p>内容 パラリンピックに7回の出場経験がある永尾嘉章氏によるデモンストレーションを見学。講話では、頑張ることの大切さについて教えていただいた。また、バスケット用の車いすを用意していただいてクラス対抗の車いすリレー体験を行い、パラスポーツの楽しさを実感した。</p>



(4) 障がい者福祉に関する取組調べ

期日 平成30年10月～(3時間)

内容 国や各県, 各市町村で取り組んでいる障がい者福祉の取組にはどのようなものがあるのか, インターネットや書籍を使って調べ学習を行った。色麻町で取り組んでいる障がい者福祉の取組と比較し, 色麻町における問題点や今後期待すること等について考えた。

(5) 障がい者スポーツ体験

期日 平成30年12月7日(金)

講師 車いすバスケットボール女子

日本代表ヘッドコーチ 岩佐 義明 氏

日本代表選手 萩野 真世 選手

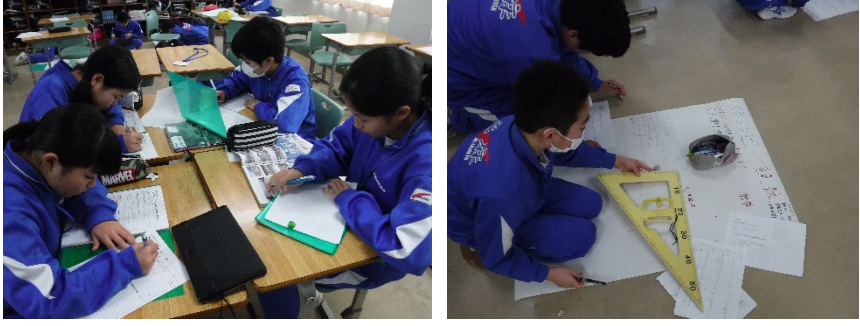
内容 講話では, 車いすバスケットボールのルールや, 選手の練習の様子について教えていただいた。また, 全員でのシュート体験や, クラス代表による萩野選手とのゲーム対決などを行い, 障がい者スポーツについての関心を高めることができた。



(6) 福祉に関する課題研究

期日 平成30年12月～2月(8時間)

内容 1学年総合学習では, これまでに学んできた福祉体験学習の総まとめとして, 「障がい者福祉」「高齢者福祉」「復興支援・ボランティア」の3系列に分かれて, 各自の課題研究を行っている。この研究で, 障がい者福祉系列を選択した生徒は, パラリンピックスポーツの種類, 車いすバスケの大会予定や選手の情報, 障がい者の生活の様子など, 講話や体験学習を通して疑問に思ったことや, 更に詳しく調べてみんなに伝えたいと思ったことなどについて, インターネットや書籍で調べ学習を行った。課題研究の成果は, 保護者と色麻小学校6年生に, ポスターセッション形式で発表した。

	
<p>6 主な成果</p>	<p>○障がい者スポーツの楽しさを体験したり、選手の技術の高さを実際に間近で見たりすることで、パラリンピックや障がい者スポーツに対する興味・関心が高まった。</p> <p>○様々な環境の中で、選手やコーチが信念をもって活動していることを知り、何事にも前向きに努力し続けることの大切さに気付くことができた。</p> <p>○講話や体験をとおして、福祉の視点での課題を見出し、今後自分たちができることについて深く考えることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○1学年の総合学習で「福祉」の学習を行っているため、その一環としてパラリンピックを取り上げた。昨年度までは白杖や車いす等のキャップハンディ体験のみ行っていたが、今年度は、実際に選手からお話を伺ったり、スポーツ用の車いすに乗る体験をしてみたりすることで、障がい者福祉をより身近なものとして捉え、新たな視点で課題を見付けられるよう工夫した。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○今回は1学年のみの体験学習であったが、あすチャレ！スクールや車いすバスケット体験など、大変興味深い内容であることから、他学年からも一緒に活動したかったとの意見が出た。今後は、できるだけ多くの生徒が学習の機会を得られるように、実施方法や予算等について検討していく必要がある。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>○総合学習の年間指導計画に、障がい者スポーツの体験学習を行う時間を明記し、毎年何らかの形での体験学習ができるよう位置付ける。</p> <p>○校内掲示等でパラリンピックの情報にふれる機会をつくり、今年度の学びを次年度以降も深めていけるよう工夫する。</p>